

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4392800134 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人慈光会 | | |
| 事業所名 | グループホーム津森倶楽部まどかユニット | | |
| 所在地 | 熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年 3月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年4月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---------------------------------|
| 基本情報リンク先 | 慈光会ホームページにて情報公開 |
|----------|---------------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| 評価機関名 | グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和3年度運営推進委員9名に依頼) | | |
| 所在地 | | | |
| 評価日(書類送付) | 令和4年 3月15日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において予断を許さない状況の中で『施設にコロナを入れない』という思いによる感染対策にて、利用者様においては不自由な状況・生活が続いており、様々な我慢をしていただいています。そんな中でも、職員一同にて利用者の方々及安全・安心・楽しく過ごしていただけるように色々な出来ることを考え実行し、季節を感じながら生活出来るように行事やイベント、施設内の装飾等行っております。またご家族様についても日頃の生活状況が少しでも伝わり安心していただけるように、施設ホームページによる情報発信を積極的に行い、タブレット端末を利用したオンラインでの面会を継続して実施しています。スタッフも感染予防を徹底し、利用者様と言葉を交わし合い、笑顔のある明るい家庭的な時間を共有しながら一緒に暮らしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中での運営大変だと思います。一人の感染者も出さず職員の皆様のご苦労に感謝するばかりです。コロナが早く終息し、地区住民が早く交流できる事を願っています。コロナ禍の中外部との交流等まま成りませんが皆様頑張って下さい。入居者を中心とした支援に真摯に取り組まれています。コロナ禍で非常に気を配られ、工夫されながら、介護サービスに御尽力頂いています。防災関連など地域の方との関わりを積極的に行い、住み慣れた環境での生活を利用者の方が継続できるように努められています。理念を基に、安心安全な生活の支援をプランにそって、その人らしい暮らしを続けるための、目配り、気配りし対応している。コロナ禍で色々と大変な毎日を過ごされているが、健康管理や感染予防対策など臨機応変に柔軟な対応が行われている。入所者のご家族からの評価も良く、コロナ禍での難しい対応も必要でしょうが入所者の方の為に頑張って下さい。可能な範囲で外出支援・季節行事を取り入れ、利用者が安心して過ごせる環境整備・自立支援に向け取り組み実施されていると思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果 まどかユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設時に職員で事業所独自の理念を作成。施設内に掲示し理念に基づいたケアが出来るよう常に年度ごとに、経営計画を立案し取り組んでいる。 | 開設時より日々、入所者の生活のリズムを尊重した支援に取り組んでいる。 | 理念に基づくケア実践のための計画を可能な範囲で、紹介して下さい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の家として毎年区費を納め、コロナ禍においても出来るかぎり地域の方と交流している。 | コロナ禍ですが充分交流されていると思います。こちらとしてもホーム周辺の草刈などを協力したい。 毎年区費を地区に納めて頂き、又初詣等地元の津森神宮に参拝してもらい、ありがたく思っています。 地域との関わりが難しい状況がつづいているなか、工夫されて取り組まれている。 コロナ禍において、地域の方との交流の機会を持つこと自体大変な苦勞されているかと思えます。 | 地域の行事、サロン老人会などの活動に参加し交流、楽しみを増やす。 地域の行事に参加出来るように、事業所内で孤立しないように。 どのように交流されているか紹介して下さい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の小学校より依頼があった際は感染状況を考慮した上で出向し、認知症や施設について知識・役割を説明し発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍において感染状況に応じて会議開催の判断を行い、開催が困難な場合は期間中の取り組み等について書面を郵送し、状況報告を行っている。 | コロナ禍の為、対面での運営推進会議は中止され、意見などを求める資料が送られて来ている。 コロナ禍で施設の運営が大変にもかかわらず、書面にて報告頂きありがとうございます。 アンケート実施するなど、取り組みの振り返りを行っている。 | 状況報告に加え、活動時の様子がわかるような写真等もあった方がありがたい。 オンラインを活用した開催はできないでしょうか。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進委員の一員として、コロナ禍で会議が開催されない場合についても書面で報告を行っており、施設運営に関する問題等相談させていただき、協力関係が築けている。 | コロナ禍の為、会議が開催されていない場合でも、書面で報告を行っており、施設運営に関する問題等、相談、協力関係が築けている。 市町村と連携し、適切な介護サービスの実施に取り組まれた。 コロナ禍で直接の運営委員会は2年で一度しかなく、書面で報告して頂き、状況が把握できています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修を定期的実施しており、日頃より身体拘束を行っていないか職員同士で確認し、身体拘束の無いケアを実践している。 | 身体拘束についての基礎知識等を職員間が共有し、適切なケアに取り組まれている。 身体拘束の無いケアを実践している。目配り、気配りをし、見守りの強化に努めている。 | コロナ禍で外部の目が入りにくい状況もあるかと思っておりますので、定期的な研修の機会等設け、虐待防止に努めて下さい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束同様に虐待についても研修を定期的実施しており、日頃より虐待を行っていないか職員同士で確認し、虐待の無いケアを実践している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内外の研修会に感染状況に応じた参加や、インターネット等を通じて権利擁護についての理解を深める機会をもっている。研修会に参加した場合は復命書を作成し、職員全体での情報共有に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の際には事前にオリエンテーションを実施し、津森倶楽部における利用契約内容、重要事項等を説明している。長期の入院加療が必要な際は、退居・解約について説明し、退院時の生活の場所についても法人内の施設と連携し、状態に応じた介護サービスを提供を継続して行う旨説明し同意を頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 担当者会議開催時や面会等の際に、生活状況等について報告を行い、意見や要望について伺っている。苦情の際には、ご家族の訴えを真摯に受け止め、苦情解決に至るまで誠意を持って対応している。苦情についての内容・原因・対応について書面化し職員への周知を行っている。 | コロナ禍で直接の面会等も制限される中で、職員一丸となって、対応されてると思います。苦情について、職員間で情報を共有し、今後の対応について職員全員で取り組んでいる。苦情解決に至るまで、誠意を持って対応している。 家族アンケートからも本人の生活状況報告や意見交換行われているようです。今後も利用者の満足度向上に取り組んでください。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月リーダー会議・ユニット会議を行っており、利用者に関する事や業務内容に関する事などについて意見を収集し、サービスの質の向上や業務内容の改善に努めている。 | 運営に関する職員意見が反映されるような仕組みが整っている。 意見を収集し、サービスの質の向上や業務内容の改善に努めている。 | 現場の職員の意見を聞いて、働きやすい職場環境をお願いします。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回人事考課を行い、職員個々の業務について評価を行い法人に報告し賞与等の査定に反映されている。また長く働きやすい職場となれる様に、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映し、有休についても積極的に取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新任職員については法人全体で開催される新任研修に参加し必要な知識を学び、既存の職員についても研修に参加し、研修内容については復命書を作成し職員全体の知識の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍においても、グループホーム連絡会主催の研修会等へ参加し、情報の共有が出来るように努めている。また法人内での研修に職員が参加することで、法人内での横のつながりにも努めている。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居事前に、本人に直接面談を行い、不安に思われていることやニーズの把握に努めている。 入居者に担当職員を配置し、個別的な要望に対処している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前又は入居当日に担当者会議を開催して、色んな心配ごとや要望を傾聴し、分かりやすい説明を心がけて、家族等の不安感の軽減に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回面談や事前訪問の際に、本人と家族等に必要と思われる支援内容を把握し、サービス利用の提案や紹介を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員主体の一方的な介護とならないように、挨拶等の言葉を日常的に交わし関係を深め、生活の中でご自身で出来る事を探し無理のない程度の家事手伝いやレクリエーションを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|------------------------------------|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会や電話等の連絡があった際には、日常の様子や状態について報告し、要望や問題があれば相談していただける関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍の中で感染状況に応じて、地域を含め近隣の馴染みのある場所への外出を検討・実施している。 | コロナ禍の中で、感染状況に応じて外出を検討・実施している。 | コロナ禍においても、蜜を避け可能な範囲で外出支援の実施をお願いします。 写真や映像で巡る旅行の検討。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションや体操、作品作りを共に行う事で利用者同士の関わる機会を持ち、リビングの席配置には関係性に応じた配慮を行い、トラブルを予防し関係が悪化しないよう努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院後は入院先と定期的に連絡を取り、退居後については次の生活の場を必要に応じて訪問し状態の把握を行い、退居先と連携し適切なサービスが提供される様に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 情報収集時(アセスメント)に、本人との会話や日々の暮らしの中から、本人の意向や、希望の把握に努めている。また、職員間で情報を共有し、本人の望む暮らしが、実現できるように、毎月、話し合う場(ミニカンファ)を設けている。 | 本人との会話や日々の暮らしの中、本人の意向や希望の把握に努めている。 | 定期的なカンファの機会でも、本人の望む暮らしが実現できているか評価をお願いします。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に、担当ケアマネまたは、生活相談員に、生活歴や生活環境等について情報提供していただいている。また、家族等に近況報告を兼ね、対話の中から生活歴や暮らし方について把握できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 担当職員が、ケアプランを元に作成したケアチェック表や心身の情報シートを参考に、現場の手伝いをしながら現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月毎に、モニタリング、アセスメントを実施。毎月職員間での話し合いの場(ミニカンファ)を開催して、介護方法の検討や意見を聞いている。その後、御家族に連絡をいれ、感染状況次第で、面談・電話で御家族の意向確認やケアプランについて説明を実施し計画書を作成している。 | 本人、家族等の意向を反映した介護計画を行っている。 本人がより良く暮らす為の介護計画を作成している。 | 認知症であっても本人の想いや意思を汲み取っていただき、具体的な目標設定やプランニングを行われるようお願いいたします。 プランニングや介護方法に関する勉強会の開催等望みます。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護職員の手伝いで現場に入ることもあり、職員間の情報共有や介護方法の見直しの話合いがその場で出来ている。 個別介護経過記録とCMの個別支援経過記録があり、現場や事務所のパソコンで内容を確認し実践につなげている。 毎月、カンファレンスを開催し情報を共有し、統一したケアの実践に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の心身状態の変化に伴い、家族だけでは対応困難と思われる外出等は、付き添いを実施している。また、同法人事業所から、外出支援（車両の運転や乗車介助等）の応援があり、事業所の枠を超えた支援を得ている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ひとりひとりが、地域で昔ながらの風習や変わらない暮らしの継続ができるように、近隣の神社のお参りや年祝いを実施している。また、季節感を取り入れた行事を開催し一緒に動き、楽しんでいただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医を受診される際に受診先へ情報を連絡し、家族都合等にて必要に応じて受診対応も行っている。また希望される方には、訪問診療についての紹介を行い適切な医療を受けられるように努めている。 | 希望に応じて、かかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 急な体調変化時の対応等体制作り、個々の健康管理についてご尽力下さい。 土日、祝日対応、夜間の体制作り、定期的な情報共有を望みます。 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設職員として看護師有資格者を1名配置しており、入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に往診の必要性が無いか状態報告行い相談し対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院される際は、入院先とこれまでの生活やサービス状況等について報告し、今後の治療方針の確認を行っている。入院期間中についても、定期的に入院先へ連絡し状況の確認をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当施設では終末期対応は行っていない。入居者について生活していく中で重度化した場合や終末期についての検討が必要な場合となった際には、本人の状態について家族へ説明し今後の意向について確認を行い、意向に沿ったサービスが提供できるように、協力医療機関や法人施設と連携している。 | 終末期の方への対応に備えて、日頃より各機関、施設と連携している。今後の意向について確認を行い、協力医療機関や法人施設と連携している。 | 入所時の早い段階から、方針を確認しておくと思う。 現在有料老人ホームでも看取りされている所も見られます。住み慣れたグループホームで、最期まで家族に見守られながらの環境作りができると思います。 今後の看取り体制作りを期待します。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDや心肺蘇生等について定期的の実技研修を実施しており、状態急変や事故発生時のマニュアル等を整備している。また事例発生時には、情報を共有し問題点があれば検討し、同様の事例に対応出来る様に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に防災訓練及び防災教育を実施しており、台風等による当施設への何らかの影響が予測される際には、法人に協力を依頼し法人関連施設へ避難を行っている。また当施設には地域の放送器が設置されており、地震や火災などの災害発生時には活用し、近隣住民の方へ災害時支援を依頼できる体制が整っている。 | 台風時や大雨の際には、より安全なグループ内の施設に避難されており、利用者の安全を第一に考えておられ、感心しています。非常時に備え、日頃より訓練・教育を実施している。地域との連携が整っていることは非常に良いことだと思います。災害対策が全職員が身につけ、地域との協力体制を築いている。 | いざという時のために、地域や自主防災組織の防災訓練に参加する等、日頃から地域との結びつきを深めておきましょう。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員間で利用者の情報を共有する際は、利用者の方に個人が特定されない様に個人名をフルネームではなく、頭文字のみやイニシャルで会話や申し送りをしている。 コロナ禍において常時マスクを着用しているため表情が分かりにくいので、声掛けのトーンや目線など、気を配り対応している。 | コロナ禍で制限があるなかでも、工夫されながら利用者の方が不快にならないような対応を日頃からされている。 人格を尊重し気配り対応している。 | マスクで顔の表情が分かりにくいので、顔色や相づち等非言語コミュニケーションを取り入れ、利用者が安心できるケアの提供をお願いします。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 職員主体の「何々して下さい」等の声かけではなく、「何々してもらってもいいですか？」等疑問系や選択肢のある声掛けをしている。 誕生日の日には好きなメニューを尋ね、希望のあった食事メニューを提供するようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者のペースに合わせて声掛けや介助行い対応し、利用者の方より様々な訴えや問題行動がある場合は、訴えの内容を傾聴し、問題行動についても無理に止めず、リスクが無いか確認し見守り行い対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 体調、季節にあわせた服装を選んでいただける様に支援し、爪きり等は定期的の実施しているが、散髪や毛染め等がコロナ禍の影響により訪問理容業者が来荘できない為適切に実施できていない。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 季節に合わせた食材の提供や、行事等の際には普段と違ったイベント食を提供し、食事を楽しんでいただける様にしている。 また利用者の能力に合わせて、食材の下ごしらえや食器拭きを一緒に行っている。 | 食事が工夫され楽しまれている。利用者の能力に合った、仕事を行っている。 利用者の方と一緒に下ごしらえや片付けをされているのは、自立支援の観点からとてもよいと思います。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人関連施設の管理栄養士と連携し、食事に関する問題点について相談しながら、利用者個々に合わせた適切な食事が提供できるようにしている。 食事・水分量について毎日記録管理し、必要に応じて補助食品の検討・提供を行っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食前のうがい、食後の歯磨きを行い口腔内の清潔保持に努め、磨き直し等の介助が必要な方には介入し、状態に応じ歯科医に往診を依頼している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者個々に合わせた排泄支援のため、紙パンツやパッドの使用・選定をしている。 また利用者の排泄パターンを把握し、必要な方には適切な声掛け、誘導を行っている。 | 利用者の排泄パターンを把握し、必要な方には適切な声掛け、誘導を行っている。 排泄用品も状態に合わせて、適切に選定されていると思われます。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--------------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便について記録管理し、必要に応じてかかりつけ医に相談しながら下剤を使用し排便コントロールを行っている。自然排便ができる様に、必要量の水分摂取を促し、乳製品や食物繊維を提供している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 利用者の希望・体調に応じて、入浴できる様に支援している。入浴時には浴槽の温度など個人に合わせて調整し、洗髪・洗身については出来るところは本人でしていただくようにしている。 | 固定された時間帯に入浴させるのではなく、個別の状況を優先し、ひとりひとりに合った入浴支援を実施している。入浴時、一人一人に適応した援助をし、清潔の保持に努めている。利用者の希望や体調に応じた入浴支援、また本人の能力に応じた支援も実施されている。 | 浴室内の空間等、ホームページに掲載いただくと、雰囲気が分かると思います。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 季節や利用者の状態に合わせて、居室が適切な温度・湿度になるように管理している。午前・午後と食事後、臥床したり居室でテレビを見たり自由に過ごせるように支援している。シーツ・枕カバー等週に一度は交換して、寝具の清潔保持に努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | かかりつけ医からの薬剤情報提供書の内容を確認し服薬について理解し、毎日服薬管理表での服薬の管理及び、服薬前後に薬袋についてダブルチェックを行い適切に服薬ができるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前の生活歴を把握し、新聞を読みたい方への新聞の提供や、洗濯物を干したり、畳んだりの手伝い、塗り絵・体操・レクリエーション等、利用者に合わせた役割や楽しみごとが提供できるようにしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍の中で、感染状況や季節に合わせて、屋外への散歩や、ドライブ等検討し実施している。 | コロナ禍の中でも希望に応じて、積極的に外での活動、外出支援を行っている。コロナ禍の中で、工夫して外出支援実施されている。利用者の方の気分転換や刺激にもなるので、今後も続けられて下さい。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人の所持金のご家族同意のもと、事務室の金庫にて出納帳を作成し管理しており、買い物希望品があった際には買い物を購入代行している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 個人の携帯電話をお持ちの方は、充電等含め自由に会話ができるように支援している。 またタブレットを活用し、ラインによるビデオ電話や日常の写真を送ったりもしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の生活空間については、毎日掃除・消毒・整理整頓を実施し、季節に合わせて自然光が入るように照明やカーテンの開閉を行っている。 リビングの壁には、季節に合わせた装飾を利用者と作成し飾りつけている。 | 居心地より共同生活ができるように工夫している。 快適に過ごせるよう多彩な共用施設が用意されている。 | 今後も感染対策に努め、利用者の方と協同で季節感のある環境作りをお願いします。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングのテーブル位置や席については利用者間の間柄に合わせた配慮を行い、また隣のユニットの利用者とも感染予防に配慮しながら交流できるようにしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室内には利用者個々に応じて、入居前に使われていた家具や、思い入れがある写真や仏壇等設置されたりと、居心地のいい居室になる様に家族にも協力を得ながら環境作りに取り組んでいる。 | 利用者の方の住み慣れた生活環境が持続されるよう、環境作りに取り組んでいる。 居心地良く過ごせるような工夫をしている。 利用者の使い慣れた日用品が持ち込まれており、居心地のいい居室になるよう配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者の移動手段に隔たり無く、移動できるようにテーブル等配置し、十分な動線が確保できるようにしている。 施設内には利用者が安全に過ごしていただけるように、全面バリアフリーで必要箇所には手摺が設置され、可能な限り自立した生活が送れるようになっている。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4392800134 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人慈光会 | | |
| 事業所名 | グループホーム津森倶楽部なごみユニット | | |
| 所在地 | 熊本県上益城郡益城町大字寺中1番地1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年 3月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年4月20日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---------------------------------|
| 基本情報リンク先 | 慈光会ホームページにて情報公開 |
|----------|---------------------------------|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-----------|--|--|--|
| 評価機関名 | グループホーム津森倶楽部 運営推進委員会(令和3年度運営推進委員9名に依頼) | | |
| 所在地 | | | |
| 評価日(書類送付) | 令和4年 3月 15日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において予断を許さない状況の中で『施設にコロナを入れない』という思いによる感染対策にて、利用者様においては不自由な状況・生活が続いており、様々な我慢をしていただいています。そんな中でも、職員一同にて利用者の方々安全・安心・楽しく過ごしていただけるように色々な出来ることを考え実行し、季節を感じながら生活出来るように行事やイベント、施設内の装飾等行っております。またご家族様についても日頃の生活状況が少しでも伝わり安心していただけるように、施設ホームページによる情報発信を積極的に行い、タブレット端末を利用したオンラインでの面会を継続して実施しています。スタッフも感染予防を徹底し、利用者様と言葉を交わし合い、笑顔のある明るい家庭的な時間を共有しながら一緒に暮らし働いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中での運営大変だと思います。一人の感染者も出さず職員の皆様のご苦労に感謝するばかりです。コロナが早く終息し、地区住民が早く交流できる事を願っています。コロナ禍の中外部との交流等まま成りませんが皆様頑張って下さい。入居者を中心とした支援に真摯に取り組まれています。コロナ禍で非常に気を配られ、工夫されながら、介護サービスに御尽力頂いています。防災関連など地域の方との関わりを積極的に行い、住み慣れた環境での生活を利用者の方が継続できるように努められています。理念を基に、安心安全な生活の支援をプランにそって、その人らしい暮らしを続けるための、目配り、気配りし対応している。コロナ禍で色々大変な毎日過ごされているが、健康管理や感染予防対策など臨機応変に柔軟な対応が行われている。入所者のご家族からの評価も良く、コロナ禍での難しい対応も必要でしょうが入所者の方の為に頑張ってください。可能な範囲で外出支援・季節行事を取り入れ、利用者が安心して過ごせる環境整備・自立支援に向け取り組み実施されていると思います。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|--|---|---|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果 なごみユニット

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 開設時に職員で事業所独自の理念を作成。施設内に掲示し理念に基づいたケアが出来るよう常に年度ごとに、経営計画を立案し取り組んでいる。 | 開設時より日々、入所者の生活のリズムを尊重した支援に取り組んでいる。 | 理念に基づくケア実践のための計画を可能な範囲で、紹介して下さい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の家として毎年区費を納め、コロナ禍においても出来るかぎり地域の方と交流している。 | コロナ禍ですが充分交流されていると思います。こちらとしてもホーム周辺の草刈などを協力したい。 毎年区費を地区に納めて頂き、又初詣等地元の津森神宮に参拝してもらい、ありがたく思っています。 地域との関わりが難しい状況がつづいているなか、工夫されて取り組まれている。 コロナ禍において、地域の方との交流の機会を持つこと自体大変な苦勞されているかと思えます。 | 地域の行事、サロン老人会などの活動に参加し交流、楽しみを増やす。 地域の行事に参加出来るように、事業所内で孤立しないように。 どのように交流されているか紹介して下さい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の小学校より依頼があった際は感染状況を考慮した上で出向し、認知症や施設について知識・役割を説明し発信している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍において感染状況に応じて会議開催の判断を行い、開催が困難な場合は期間中の取り組み等について書面を郵送し、状況報告を行っている。 | コロナ禍の為、対面での運営推進会議は中止され、意見などを求める資料が送られて来ている。 コロナ禍で施設の運営が大変にもかかわらず、書面にて報告頂きありがとうございます。 アンケート実施するなど、取り組みの振り返りを行っている。 | 状況報告に加え、活動時の様子がわかるような写真等もあった方がありがたい。 オンラインを活用した開催はできないでしょうか。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進委員の一員として、コロナ禍で会議が開催されない場合についても書面で報告を行っており、施設運営に関する問題等相談させていただき、協力関係が築けている。 | コロナ禍の為、会議が開催されていない場合でも、書面で報告を行っており、施設運営に関する問題等、相談、協力関係が築けている。 市町村と連携し、適切な介護サービスの実施に取り組まれた。 コロナ禍で直接の運営委員会は2年で一度しかなく、書面で報告して頂き、状況が把握できています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての研修を定期的実施しており、日頃より身体拘束を行っていないか職員同士で確認し、身体拘束の無いケアを実践している。 | 身体拘束についての基礎知識等を職員間が共有し、適切なケアに取り組まれている。 身体拘束の無いケアを実践している。目配り、気配りをし、見守りの強化に努めている。 | コロナ禍で外部の目が入りにくい状況もあるかと思しますので、定期的な研修の機会等設け、虐待防止に努めて下さい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体拘束同様に虐待についても研修を定期的実施しており、日頃より虐待を行っていないか職員同士で確認し、虐待の無いケアを実践している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 法人内外の研修会に感染状況に応じての参加や、インターネット等を通じて権利擁護についての理解を深める機会をもっている。研修会に参加した場合は復命書を作成し、職員全体での情報共有に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の際には事前にオリエンテーションを実施し、津森倶楽部における利用契約内容、重要事項等を説明している。長期の入院加療が必要な際は、退居・解約について説明し、退院時の生活の場所についても法人内の施設と連携し、状態に応じた介護サービスを提供を継続して行う旨説明し同意を頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|--------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 担当者会議開催時や面会等の際に、生活状況等について報告を行い、意見や要望について伺っている。苦情の際には、ご家族の訴えを真摯に受け止め、苦情解決に至るまで誠意を持って対応している。苦情についての内容・原因・対応について書面化し職員への周知を行っている。 | コロナ禍で直接の面会等も制限される中で、職員一丸となって、対応されてると思います。苦情について、職員間で情報を共有し、今後の対応について職員全員で取り組んでいる。苦情解決に至るまで、誠意を持って対応している。 家族アンケートからも本人の生活状況報告や意見交換行われているようです。今後も利用者の満足度向上に取り組んでください。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月リーダー会議・ユニット会議を行っており、利用者に関する事や業務内容に関する事などについて意見を収集し、サービスの質の向上や業務内容の改善に努めている。 | 運営に関する職員意見が反映されるような仕組みが整っている。 意見を収集し、サービスの質の向上や業務内容の改善に努めている。 | 現場の職員の意見を聞いて、働きやすい職場環境をお願いします。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年2回人事考課を行い、職員個々の業務について評価を行い法人に報告し賞与等の査定に反映されている。また長く働きやすい職場となれる様に、毎月の勤務に職員個々の希望休を反映し、有休についても積極的に取り入れている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新任職員については法人全体で開催される新任研修に参加し必要な知識を学び、既存の職員についても研修に参加し、研修内容については復命書を作成し職員全体の知識の向上に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍においても、グループホーム連絡会主催の研修会等へ参加し、情報の共有が出来るように努めている。また法人内での研修に職員が参加することで、法人内での横のつながりにも努めている。 | | |
| II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居事前に、本人に直接面談を行い、不安に思われていることやニーズの把握に努めている。 入居者に担当職員を配置し、個別的な要望に対処している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前又は入居当日に担当者会議を開催して、色んな心配ごとや要望を傾聴し、分かりやすい説明を心がけて、家族等の不安感の軽減に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 初回面談や事前訪問の際に、本人と家族等に必要と思われる支援内容を把握し、サービス利用の提案や紹介を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 1日の生活の中で本人が出来る事を見つけて一緒にいき、一方的に介護をするのではなく相手の意向を聞きながら状況に合わせた支援を行っている。 また生活環境を出来るだけ同じ様にする事で、その時の状態に合わせた挨拶や声掛けを心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|--|------------------------------------|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 現在コロナ感染予防の為、面会制限がある中で希望されるご家族様にはオンライン面会を実施している。 またご家族様のニーズを把握して話を聞きながら、利用者様に合わせた支援ができる関係作りに努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍の中で感染状況に応じて、地域を含め近隣の馴染みのある場所への外出を検討・実施している。 | コロナ禍の中で、感染状況に応じて外出を検討・実施している。 | コロナ禍においても、蜜を避け可能な範囲で外出支援の実施をお願いします。 写真や映像で巡る旅行の検討。 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様同士馴染みの関係が出来る様に席の配慮をしている。 また個人の時間を大切に過ごせる日課の工夫や、日常に関する話題の提供と毎日の会話を大切にしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 入院後は入院先と定期的に連絡を取り、退居後については次の生活の場所を必要に応じて訪問し状態の把握を行い、退居先と連携し適切なサービスが提供される様に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 情報収集時(アセスメント)に、本人との会話や日々の暮らしの中から、本人の意向や、希望の把握に努めている。また、職員間で情報を共有し、本人の望む暮らしが、実現できるように、毎月、話し合う場(ミニカンファ)を設けている。 | 本人との会話や日々の暮らしの中、本人の意向や希望の把握に努めている。 | 定期的なカンファの機会でも、本人の望む暮らしが実現できているか評価をお願いします。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に、担当ケアマネまたは、生活相談員に、生活歴や生活環境等について情報提供していただいている。また、家族等に近況報告を兼ね、対話の中から生活歴や暮らし方について把握できるように努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 担当職員が、ケアプランを元に作成したケアチェック表や心身の情報シートを参考に、現場の手伝いをしながら現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3ヶ月毎に、モニタリング、アセスメントを実施。毎月職員間での話し合いの場(ミニカンファ)を開催して、介護方法の検討や意見を聞いている。その後、御家族に連絡をいれ、感染状況次第で、面談・電話で御家族の意向確認やケアプランについて説明を実施し計画書を作成している。 | 本人、家族等の意向を反映した介護計画を行っている。 本人がより良く暮らす為の介護計画を作成している。 | 認知症であっても本人の想いや意思を汲み取っていただき、具体的な目標設定やプランニングを行われるようお願いいたします。 プランニングや介護方法に関する勉強会の開催等望みます。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護職員の手伝いで現場に入ることもあり、職員間の情報共有や介護方法の見直しの話合いがその場で出来ている。 個別介護経過記録とCMの個別支援経過記録があり、現場や事務所のパソコンで内容を確認し実践につなげている。 毎月、カンファレンスを開催し情報を共有し、統一したケアの実践に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の心身状態の変化に伴い、家族だけでは対応困難と思われる外出等は、付き添いを実施している。また、同法人事業所から、外出支援(車両の運転や乗車介助等)の応援があり、事業所の枠を超えた支援を得ている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | ひとりひとりが、地域で昔ながらの風習や変わらない暮らしの継続ができるように、近隣の神社のお参りや年祝いを実施している。また、季節感を取り入れた行事を開催し一緒に動き、楽しんでいただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医を受診される際に受診先へ情報を連絡し、家族都合等にて必要に応じて受診対応も行っている。また希望される方には、訪問診療についての紹介を行い適切な医療を受けられるように努めている。 | 希望に応じて、かかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるよう支援している。 | 急な体調変化時の対応等体制作り、個々の健康管理についてご尽力下さい。 土日、祝日対応、夜間の体制作り、定期的な情報共有を望みます。 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 施設職員として看護師有資格者を1名配置しており、入居者の体調変化が見られた際には状態報告を行い受診を含め対応について相談している。また訪問診療対象者についても同様に往診の必要性が無いか状態報告を行い相談し対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院される際は、入院先とこれまでの生活やサービス状況等について報告し、今後の治療方針の確認を行っている。入院期間中についても、定期的に入院先へ連絡し状況の確認をしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 当施設では終末期対応は行っていない。入居者について生活していく中で重度化した場合や終末期についての検討が必要な場合となった際には、本人の状態について家族へ説明し今後の意向について確認を行い、意向に沿ったサービスが提供できるように、協力医療機関や法人施設と連携している。 | 終末期の方への対応に備えて、日頃より各機関、施設と連携している。今後の意向について確認を行い、協力医療機関や法人施設と連携している。 | 入所時の早い段階から、方針を確認しておくと思う。現在有料老人ホームでも看取りされている所も見られます。住み慣れたグループホームで、最期まで家族に見守られながらの環境作りができると思います。今後の看取り体制作りに期待します。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | AEDや心肺蘇生等について定期的に実技研修を実施しており、状態急変や事故発生時のマニュアル等を整備している。また事例発生時には、情報を共有し問題点があれば検討し、同様の事例に対応出来る様に努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に防災訓練及び防災教育を実施しており、台風等による当施設への何らかの影響が予測される際には、法人に協力を依頼し法人関連施設へ避難を行っている。また当施設には地域の放送器が設置されており、地震や火災などの災害発生時には活用し、近隣住民の方へ災害時支援を依頼できる体制が整っている。 | 台風時や大雨の際には、より安全なグループ内の施設に避難されており、利用者の安全を第一に考えておられ、感心しています。非常時に備え、日頃より訓練・教育を実施している。地域との連携が整っていることは非常に良いことだと思います。災害対策が全職員が身につけ、地域との協力体制を築いている。 | いざという時のために、地域や自主防災組織の防災訓練に参加する等、日頃から地域との結びつきを深めておきましょう。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様の気持ちを聞いて、どの様に 思っているかを知り支援を行っている。 親しみやすい言葉掛けでも、利用者 の方が不快な気分にならないように尊厳を 守り会話をしている。 | コロナ禍で制限があるなかでも、工夫されな がら利用者の方が不快にならないような対応 を日頃からされている。 人格を尊重し気配り対応している。 | マスクで顔の表情が分かりにくい ので、頷きや相づち等非言語コミュニ ケーションを取り入れ、利用者が安心 できるケアの提供をお願いします。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている | 何か支援を行う時は必ず本人へ意思の 確認を行い、可能な限り希望に添える 様に、衣類や就離床時間などは自分で 決めてもらえるような環境を作っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者個々の生活リズムを大切にしま ながら、強制的な声かけにならない様に心 がけ、希望を伝える事が難しい利用者 様に対しては会話から探り、状態に合わ せて支援を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している | 朝の起床時に顔洗い、整髪等の整容を 促し整え、毎月理髪の希望を聞きなが ら、身だしなみを整えている。 衣類についても、自分で選ぶことが出来 る方には好き服は選んでもらえる様に 支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている | 季節の旬の食材や、イベント時には普 段と違った食事を提供し、誕生日など は、その方の嗜好品のメニューを聞いて 提供している。 お盆拭きなどの手伝いが可能な方 には、一緒にしていただいている。 | 食事が工夫され楽しまれている。利用者の能 力に合った、仕事を行っている。 利用者の方と一緒に下ごしらえや片付けをさ れているのは、自立支援の観点からとてもよ いと思います。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-----------------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 法人の管理栄養士へ、気になる方の栄養状態やカロリーなどを相談している。食事・水分チェックを管理して、食事がとれていない方には、栄養補助食品の提供や、水分量が低い方には好きな飲み物を提供したりと、必要量が確保できるように支援している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアを促し、磨き残し等ないか確認して口腔ケア後の仕上げを行っている。状態に応じて歯科往診や衛生士のよる口腔ケアを実施している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 利用者個々に合わせた排泄用品を選定し、トイレの際などパットの確認を行い、都度検討を行っている。 | 利用者の排泄パターンを把握し、必要な方には適切な声かけ、誘導を行っている。排泄用品も状態に合わせて、適切に選定されていると思われます。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便チェック表を記入し、利用者個々の排便状況を把握しながら、食事に食物繊維の食材を取り入れたり、必要に応じて、かりつけ医に相談している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人一人ゆっくりと入浴できるよう支援しており、入浴の時間帯等本人の意思を出来る限り尊重して、入浴介助を行っている。 | 固定された時間帯に入浴させるのではなく、個別の状況を優先し、ひとりひとりに合った入浴支援を実施している。入浴時、一人一人に適応した援助をし、清潔の保持に努めている。利用者の希望や体調に応じた入浴支援、また本人の能力に応じた支援も実施されている。 | 浴室内の空間等、ホームページに掲載いただくと、雰囲気がかかります。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者個人の状態や希望に合わせて、部屋の温湿度の調節や、部屋の明かりに調整を行い、気持ちよく休んでいただけるようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 利用者の状況、状態変化時にはユニット職員、看護師、ケアマネ、管理者に相談、報告を行い、状態に合った対応、支援を行っている。 内服薬の変更があった場合、副作用、用法や用量を情報共有している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 利用者の能力や意向に合わせて、洗濯物干しや洗濯物たたみを手伝っていただいたり、個人レクとして塗り絵や創作活動を行ったりしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日はウッドデッキにて日光浴や外の景色を楽しんでいただき、季節の移り変わりを肌で感じてもらっている。またお花が好きな利用者様に対しては一緒に花壇作りや花植え等に参加していただいたりと、積極的に外での活動を行っている。 | コロナ禍の中でも希望に応じて、積極的に外での活動、外出支援を行っている。 コロナ禍の中で、工夫して外出支援実施されている。利用者の方の気分転換や刺激にもなるので、今後も続けられて下さい。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 基本的に利用者のお金は事務所で預らせていただいております、何か購入品の要望があった際には職員が買い物に行き購入している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | コロナ禍で面会を制限している為、LINEアプリでのビデオ通話を、ご家族の方に勧めており、ご家族と交流ができるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に応じた掲示物を壁に掲示して、季節を感じていただける工夫や、感染予防として定期的に換気を行い、外の空気を感じていただきながら、安心して生活できるようにしている。 | 居心地より共同生活ができるように工夫している。 快適に過ごせるよう多彩な共用施設が用意されている。 | 今後も感染対策に努め、利用者の方と協同で季節感のある環境作りをお願いします。 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングの席の位置については、利用者同士の相性に配慮しており、トラブルがあった際には、都度席位置や机の配置を変更している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者の方が作成された作品を飾ったり、ご本人の好きな物や家族の写真を置いている。 本人の生活スタイルに合わせて、動線に支障が無い様に、家具の配置等に配慮した居室作りをしている。 | 利用者の方の住み慣れた生活環境が持続されるよう、環境作りに取り組んでいる。 居心地良く過ごせるような工夫をしている。 利用者の使い慣れた日用品が持ち込まれており、居心地のいい居室になるよう配慮されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 安全に生活できるように、共有空間及び居室も含め、利用者の動線上に障害物は置かない様にしている。 | | |